淑　徳　大　学　広　報　誌

# Together

SHUKUTOKU

http://www.shukutoku.ac.jp

No. 211 | 2016. 4.1 Spring

学長メッセージ
## 新入生の皆さんへ

ともいきのこころ
## 学祖が私たちに託したこと

淑徳人
千葉県立特別支援学校市川大野高等学園教諭
加藤 健次郎さん

NEWS CLIP

知識モリモリ×健康モリモリ
体にいいもの食べてる？

# 淑徳大学と雄勝町にとっての 2011年3月11日 そしてその後、これから。

前編

Cover Person
塚本　龍星さん（表現学科2年）

# 新入生の皆さんへ

学 長 **足立 叡** ADACHI AKIRA

淑徳大学の4キャンパス、千葉キャンパス、千葉第2キャンパス、埼玉キャンパス、東京キャンパスそれぞれの学部、学科の新入生の皆さんに対し、皆さんのわが淑徳大学へのご入学を、大学を代表して熱く歓迎し、心から祝福いたします。

淑徳大学は昨年（２０１５年）、大学創立50周年の節目を迎えました。したがいまして、今年度の新入生である皆さんは、淑徳大学がその節目を超えて、これから更なる50年の歩みに向かって進んでいく、そのスタートに立った最初の新入生であります。そこで、そうした記念すべき新入生である皆さんに対し、学長としてお伝えしておきたいことを、以下述べさせていただきたいと思います。

淑徳大学は、今から51年前の１９６５年、現在の千葉キャンパスの地に、社会福祉学部社会福祉学科という、一学部一学科だけの、入学定員１００名・収容定員４００名の小さな単科大学として誕生しました。淑徳大学のこうした誕生・創立は、小さな大学の誕生・創立ではありましたが、半世紀を経た今日から見ますと、現在の大学教育に求められている人材育成の意味するところを、その「建学の精神」において、既に先取りした大学の誕生・創立であったといっても決して過言ではありません。

淑徳大学の創立者である学祖・長谷川良信先生は51年前、その建学に際して、これからの時代、社会を生きる人間には、社会福祉のみならず、様々な社会的実践においても、「他者を生かし、他者と共に生きる力」が求められており、そうした力を身に付けた人材の育成こそ、来たるべきこれからの大学教育の使命であると確信されたのです。そして、こうした淑徳大学の「建学の精神」の根拠を、大乗仏教の精神に依拠した『利他共生の理念』に定められました。

ここでいう『利他共生』とは、私たちは誰しも自分の力だけで生きているのではなく、自分の意志を超えたところで「他者に生かされて生きている」ということ、そして、この「他者に生かされて生きている」という自覚が深められてこそ、そこから「他者を生かし、他者と共に生きる」（利他共生）という、様々な社会的実践が生み出されてくるのだといえます。新入生の皆さんには、こうした「建学の精神」に支えられた淑徳大学に入学されたということを、改めて確認し、そのことをこれから4年間の学生生活において大切にしていただきたいと願うものであります。

淑徳大学は、創立から半世紀経た現在、4キャンパス6学部11学科、入学定員１，１５５名、収容定員４，６２０名の教学体制へと広がっていますが、それぞれの学部・学科の教育や学びもすべからく、その共通基盤である『利他共生の理念』にもとづく人材育成に基礎づけられています。したがって、皆さんの淑徳大学の学生であることの存在証明とは、日々の学修がその共通基盤に基づく学びであることに求められるといえましょう。

次にお伝えしたいことは、「大学で学ぶこと」の意味についてです。今日のわが国では、ご承知の通り、18歳人口のほぼ50％の人たちが大学に進学する時代になっています。そうした中では、「大学教育」に対する社会的な期待と要請も、かつての大学に求められたものとは大きく異なってきております。かつての大学はそこでの教育を通して、いうなれば、社会の「知的エリート」を養成することに重きが置かれていたといってもいいでしょう。しかし今日の大学の教育に求められているのは何かといいますと、学生の皆さんが入学された学部・学科での「専門的な知識やスキル、さらには専門資格の学び」を、単に「知識や資格を得た」だけに終わらせず、将来皆さんが「社会人」として、また「職業人」として自らを活かしていく力、言い換えれば「社会に貢献しうる人間に成るための力」（これを「学士力」といいます）にしていくための「学び」とそれを支える「教育改革」です。

皆さんが入学された淑徳大学では、現在、学生の皆さんの授業への取り組み方についても、先生から「授業を受ける」という「受動的な学び方」ではなく、学生の皆さんが主体的に「授業に参加する」という「能動的な学び方」が実現できるよう、そのための教育改革に全学を挙げて取り組んでいます。

こうした「学生の皆さんの能動的な学びを引き出す教育実践」に向けての改革は、「教職員と学生の皆さんとの協働作業」として取り組んでいかなければ意味がありません。新入生の皆さんにもそうした教育改革について、是非一緒に取り組んでいっていただきたいと思います。

最後に、新入生の皆さんのこれからの淑徳大学での学生生活が、異なる価値観を持つ人々や、ゼミやサークルでの先輩・後輩、また豊富な経験をもった先生方、さらには世代の異なる地域の方々、こうした方々との「豊かな出会い」を通して、一日一日、実り多く、充実したものとなりますことを願っております。

## ●学部長のご紹介

人文学部長
宇佐美 正利

経営学部長
隈 正雄

看護栄養学部長
田中 秀子

総合福祉学部長
戸塚 法子

教育学部長
新井 保幸

国際コミュニケーション学部長
星野 英樹

コミュニティ政策学部長
山本 功

### 創立 50 周年を迎えた淑徳大学

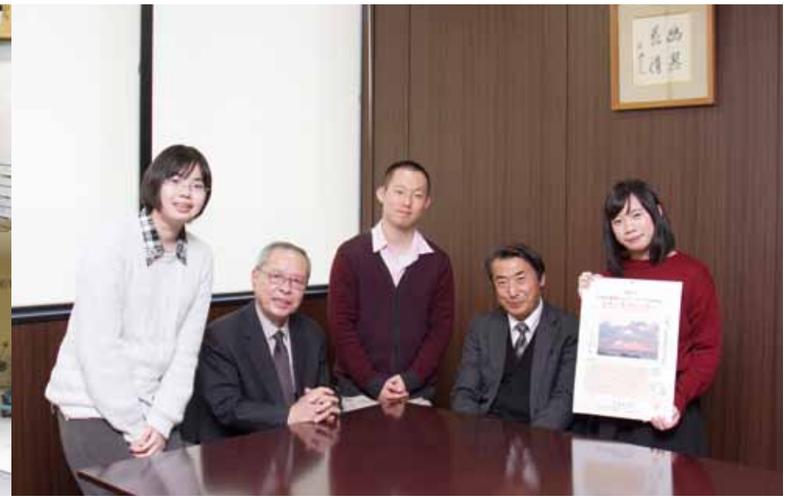
2015 年に淑徳大学は 50 周年を迎えました。
1965 年に 4 つめの福祉系大学として誕生した本学は「共生」を理念に今後も発展していきます。
上の写真は、千葉キャンパスで行われた 50 周年記念碑の序幕式です。
それぞれのキャンパスに記念碑が設置されています歴史を自身で感じてください。

# 淑徳大学と雄勝町にとっての2011年3月11日。そしてその後、これから。

## 震災から5年―。本学の支援のあり方を確認する。

前編

**東日本大震災から5年。本学は宮城県石巻市雄勝町を拠点に支援活動を継続しています。発生直後にボランティアに赴いた学生たちは社会へ巣立ち、後輩たちがそのバトンを受け継いできました。共に生きる、社会と共に学ぶという建学の精神に基づいて行動してきたからこそ、現地の方々に受け入れていただき、今日まで活動が続いてきたのです。もちろん、これからも本学は雄勝の人々と共にあります。これから本学で学び始める新入生。新しいことに取り組んでみたいと考えている在学生。あらためて「私たちにできること」について足立学長と、現地で避難所の責任者として活躍した本学卒業生の岩佐氏をお招きして、座談会を行いました。**



今回の座談会は震災から5年という区切りと、これからの淑徳大学の被災地支援について
足立学長と卒業生の岩佐氏、雄勝ボランティアに参加経験のある3名の学生が、熱い思いを語った。

2011年当時のボランティア活動。
避難所の食事提供・清掃や浜の清掃など地域の皆さんと一緒に活動を行った。

### 母校への信頼。期待に応えたいという思いで大学は動く

**足立**　はじめに東日本大震災発生直後のことを振り返っておきたいと思います。ここにおいでの岩佐先生が、石巻市雄勝町大須小学校避難所で陣頭指揮にあたっており、大学に支援を要請しているという話が、4月初めに卒業生を通じて伝えられました。これに対して、当時の長谷川匡俊学長（現・学校法人大乗淑徳学園理事長）も私も、そして地域支援ボランティアセンターのメンバーたちも、とにかく岩佐先生の母校への信頼と期待に応えなければいけないという思いで、すぐさま東日本大震災支援ボランティアセンターを立ち上げて、活動を始めたのです。単なる労働力の提供ではなく、現地に身を置いて必死になって生きている方々の姿に触れて、生きることの大切さを学ばせていただくことが、先輩の信頼に応えていくことだろうと、そんな思いで学生たちを送り出しました。雄勝町大須地区を拠点に、大学と地域の方々と長く関わりを続けていこうという基本的な姿勢は、これからも変わりません。

**岩佐**　実は、正直なところ学生や先生方が被災地に来て活動してくださるとは思っていませんでした。東北地区は淑徳大学の同窓会ネットワークが密で、そのやりとりの中で大学とつながっていったのが始まりです。たったひとりの卒業生のために動いてくれる大学なんだと非常に感動しました。その年の夏に長谷川理事長が福島で講演されましたが、そこで「卒業生も淑徳大学だ」と言われて、思わず涙ぐんだことを覚えています。淑徳大学に入学して本当に良かったと思います。ふつうなかなかできないですよね。

**足立**　大須小学校避難所にうかがったとき、何十年ぶりに岩佐先生とお会いしたとき、卒業してから一度も会っていないのに、まるで昨日会ったような不思議な感覚がしました。

**岩佐**　先生に来ていただいたことが嬉しくて、学生時代に戻ったような気がしました。

**足立**　当時を振り返って、学生たちの印象はどうだったでしょうか。

**岩佐**　よく来てくれたという思いが一番強かったです。この状況はどうなるのだろう、どうしていいかわからないという非常に苦しい状況の時に助けていただき感謝しています。学生のみなさんも本当によくやってくれました。

**足立**　大須小学校避難所での活動では、夜に宿舎でミーティングを行いました。そこでの学生たちの感想がとても印象に残っています。「日常のあたりまえの生活の大切さがわかった」、「ここで起きていることは特別ではなく、いつ誰にでも起こり得ることだと思った」、「最初はボランティアに行くんだという意識だったが、被災地のみなさんと活動しているうちに、自分はボランティアにさせていただいているんだと思うようになった」と話していました。支援活動を、自分自身や日常生活とつながるものとしてとらえてくれたことは、素晴らしい学びや気づきになったと思っています。

**岩佐**　一班あたりの活動が4、5日なのに、来たときと帰るときで学生の表情がたくましく変わっていました。それだけ密度の濃い活動だったのでしょう。見送るたびに、その成長に驚かされていました。

**足立**　当時、私のゼミの学生も参加しまして、ボランティアから戻ってきたときの成長ぶりに驚かされました。3年生のときに参加したのですが、その後の就職活動にも雄勝での経験が役立ったようです。

### 共に学ばせていただく姿勢を忘れてはならない

**足立**　さて、今日集まってくれた学生のみなさんは、東日本大震災発生当時は、高校生や中学生だったと思います。本学に入学し、どのような思いでこのボランティア活動に参加したのでしょうか。

足立学長

**岩佐 勝氏**

元石巻市立大須中学校校長。大震災発生直後から雄勝町大須小学校避難所の責任者として対応にあたる。同避難所での支援活動、その後の学習支援ボランティア活動等、学生の受け入れにあたり、ご尽力いただいている。1978年、社会福祉学部卒。

**髙浦 美咲さん**

社会福祉学科4年。地域支援ボランティアセンター所属。1年生の夏に初めて雄勝花火大会に参加。以降活動を継続し、現在は「ともいきカレンダー」の制作に中心となって携わる。

**髙木 直揮さん**

社会福祉学科4年。1年生の時にともいきハウスの整備作業に参加し、その後もスタディーツアーなどで石巻市や南三陸町を訪れる。教育学、中でも特別支援教育に関心がある。

**千葉 瑛梨奈さん**

実践心理学科2年。念願がかなって、雄勝町を今年2月に初めて訪れる。現在は、髙浦さんと共に「ともいきカレンダー」や雄勝町の魅力を伝える動画の制作に取り組んでいる。

**高浦**　淑徳大学の学生が被災地の支援活動で活躍していることは入学前から知っていました。入学式で活動の様子を伝える映像を見て、大学生ってなんて格好良いんだろうと感動したことを覚えています。高校生の頃からなにかをしたいとずっと思っていたことが、淑徳大学なら実現できると確信し、地域支援ボランティアセンターへの参加を決めました。

**高木**　私も雄勝町でボランティア活動が継続して行われていることは知っていました。他人事ではないとずっと思っていましたし、福島の親戚から風評被害の話を聞いていたこともあって、なんらかの形でこの出来事に関わっていきたいと思ったことがきっかけです。

**千葉**　父親が福島出身で、被災地の様子は気になっていました。ただ、実際にどうなっているのかをあまり知らなかったので、まず自分の目でちゃんと見ておきたいという気持ちから参加しました。

**足立**　みなさんが現在行っている活動は、当初の頃とは内容がもちろん変わってきていると思います。しかし、淑徳大学の利他共生の建学の精神を、現地のさまざまな活動を通して学んでほしい、行動を通して学んでほしいという基本姿勢は変わっていません。つまり、この活動は単なるマンパワーの派遣ではなく教育なのです。こうした姿勢を忘れなければ、活動はずっとつながっていくと考えています。

**高浦**　1年生の時から支援活動に取り組んでいますが、やはりできることがすごく限られてきていてなにをすれば良いのだろうと壁を感じたこともありました。ですが、行くたびに自分の子どもや孫が遊びに来たように迎えてくださり、学校生活で落ち込んだ時も逆に元気をもらいました。雄勝の方々は笑顔が力強く、私たちにはないオーラを持っているような気がします。うかがってお話するだけでも学びになっていたのではないでしょうか。

**高木**　現地で知り合ったボランティア団体の方に誘われて、先日、埼玉で行われた雄勝町の方々との交流会に参加しました。本当に人柄が素晴らしい方々ばかりで、人とのつながりで自分の気持ちや考え方がこんなにも豊かになるのかと、雄勝の方々との関わりの中で学びました。

**千葉**　雄勝の方々は、密接にかかわりあって暮らしていらっしゃると感じました。そして、なにより感じたのは、自然の素晴らしさ。海産物に恵まれていたり、星空がきれいだったり…。素敵なところをたくさん教えていただきました。

**足立**　土地の魅力に惹かれるということも活動を継続する上で大事ですね。

**岩佐**　雄勝の人たちは大学生に接する機会があまりなく、最初はなにができるだろうというところが正直な気持ちだったと思います。でも、体験を通して本当の共生きということを実感し、見違えるように成長していく。そうすると、学生が頑張っているんだから、雄勝の我々もやらなきゃいけないという気持ちになってくるんです。現地の人々の中で、淑徳大学という存在は、間違いなく特別なものになっていると思います。

続きは次号に掲載予定です

**防災に関心を持とう**　岩佐氏が常に持ち歩いている防災グッズ

想定を超えた10メートル以上の津波が各地を襲った東日本大震災。現場を経験された岩佐先生は、震災後「ラジオ」「懐中電灯」「エマージェンシーシート」「笛」「お菓子や栄養食品など」を常に携行されていると言います。地震や津波をはじめ、自然災害の状況はまさに予測不能で、避難すべき場所を瞬時に判断する力を身につけることが重要です。「避難場所」（災害発生時に一時的に避難する場所）や「避難所」（寝泊りなど一定期間の避難が可能な場所）を日頃から検討しておくことが必要でしょう。岩佐先生が繰り返すのは「防災の壁（意識）は高く」という教訓。ここまで備えれば大丈夫という安全圏は防災にはありません。

現在の活動内容

# 淑徳大学地域支援ボランティアセンター（大学として活動）
# 東日本大震災被災地支援プログラム

## 学習支援ボランティア【夏】

震災以降、淑徳大学と交流が続いている宮城県石巻市立大須小学校・中学校の子どもたちの、夏休みの学習を応援することを第一の目的としています。そして、被災地の現実と復興の現状を、人々の生活にふれて「ともに生きる」ことの意味と「私たちに何ができるか」を体験的に学ぶことを第二の目的としています。

## パネルシアターキャラバン【夏】

被災地にてパネルシアターを通じ、子ども達や高齢者に対し笑顔を取り戻し、元気になってもらう為の支援として活動を行う。ハード面よりソフト面における「心のケア」を目的とする。

## スタディーツアー【春】

被災地の復興が進む中、3・11を風化させない「できることを。いま。ここから」をスローガンに、宮城県石巻市雄勝町を中心に活動を進めています。この歩みを今後も続けていくために、まずは東日本大震災の被災地に立ち、地域を見て、現地の方々の語りを聞き、ボランティア活動を体験する中で、自分たちにできることは何だろうかを考えるスタディーツアーを開催します。

**ボランティア参加者募集！**

石巻雄勝町のボランティアについてもっと知りたい・参加してみたい方は各キャンパスの窓口（▶）までお問い合わせください。

【窓口】
- 千葉キャンパス　地域連携室
- 千葉第２キャンパス　事務部
- 埼玉キャンパス　学事部学生厚生
- 東京キャンパス　学生支援部

**東日本大震災復興支援サイト**

http://www.shukutoku.ac.jp/university/action/social/

これまでの淑徳大学の支援活動が紹介されているサイトです。新入生だけでなく、ご父母の皆さんもご覧ください。

## 学祖を訪ねて

# 学祖が私たちに託したこと

昨年、淑徳大学は創立50周年、学祖 長谷川良信先生生誕125年を迎えました。
学祖の「後に続く者を育てたい」という情熱により、淑徳大学はわが国で4番目の社会福祉単科大学として開学し、今や4キャンパス、6学部を擁するまでに発展しました。多様な学部、学生たちが集まるようになりましたが、各キャンパスに設置されているモニュメントがあらわす通り、「共生き」「感恩奉仕」の建学の精神、私たちのこころは一つです。これを深く理解し、実りある大学生活を過ごしていきましょう。

### 感恩奉仕の精神

淑徳大学の建学の精神を支える「共生き」のこころ。これは、人間と人間の共生にとどまらず、人間と自然との、およそいのちあるものすべてとの共生を意味しています。この考え方に共感して、入学を決めた人も多いでしょう。

共生き、あるいは思いやりということは、私たちは何となく感覚的に理解していますが、学祖である長谷川良信先生はどのような思いでこれを建学の精神に据え、後世に何を託したのでしょうか。良信先生の足跡をたどりながら、探ってみることにします。

良信先生は、6歳で浄土宗・得生寺の養子となり、出家得度します。共生きのこころの根底には大乗仏教の精神があります。わかりやすく言えば、自分が成仏(悟りを開く、煩悩を脱する、この世の苦しみから解放される)を求めるには、まず苦の中にあるすべての生き物たち(一切衆生)を救いたいというこころ「菩薩心」が必要であるという考え方です。このため、他者の救済を優先する利他行が大切になります。

良信先生は、大正4年(1915)に宗教大学本科(今の大正大学の前身)を卒業すると、東京市養育院の巣鴨分院に勤務し、利他行の実践と言える社会事業の第一歩を踏み出します。第一次世界大戦直後の殺伐とした世相の中で、社会にあふれる家もなく親もない子どもたちの救済の施設です。ここで事実上の責任者として、激務と粗末な食事、劣悪な環境に耐え、子どもたちのために情熱を傾けます。しかし、もともと頑健でなかった良信先生は、一年足らずで当時は不治の病とされていた肺結核に冒されてしまいます。そこで、房総半島の南端にあった養育院の安房分院(結核療養所)で転地療養することになりました。喀血もあり、幾度か生死の境をさまよいます。

社会事業の現場からのリタイア、死への恐怖。良信先生の悔しさや絶望はどれほどだったでしょう。ある日、分院近くの浜辺を散歩していると、何人かの漁師が泥砂を一心不乱に掘って、釣りの餌にするゴカイを探している光景を目にしました。この時、良信先生は、「あの泥砂の中で生きている小さなゴカイさえも生命を宿し、しかも何かの役に立っているのだ。自分も社会に役立つことができるのではないか。生きることができるうちに精一杯生きて、自分の使命をやり抜こう」と考えました。これが転機となり、病状も日増しに回復し、再び社会事業の道に邁進することになります。

「感恩奉仕」とは、生かされていることに感謝し(感恩)、自分の与えられた命を他者にお返しする(奉仕)ことです。つまり、自分の尊いいのちを自他の自己実現に向けて燃焼させることが「自利利他」になります。良信先生が見たゴカイも同じです。共生きのこころは、一人ひとりのいのちが、他の一切のいのちと深いところでつながっており、自己のしあわせ(いたみ)と他者のしあわせ(いたみ)はその根本において別々のものではないという自覚から始まります。

### Not for him, But together with him

大正7年(1918)に、良信先生は宗教大学社会事業研究室(大学に設置されたわが国最初の社会事業教育機関)に迎えられ、東京西巣鴨のスラム街、通称「二百軒長屋」に単身移住し、徹底的な実踏調査と住民救済事業に身を投じます。当時、一般の人は誰も近づかなかったといわれる社会の最底辺の人々が住む地区であり、良信先生のフロックコートや紋付羽織をはじめ、家財道具のすべてが盗まれるという目にも遭うありさまでした。それでも、物がすべてなくなって広々とした六畳一間で子どもたちのための夜学を始めたり、親たちの身の上相談にのったり、セツルメント活動(学祖はこれを「隣保事業」と訳す。スラム街に定住し、住民と人格的、日常的接触をして、生活改善、福祉の向上を図ること)に尽力します。さらに、これを継続的に行っていくため、大正8年(1919)に、いわば大乗淑徳学園の原点とも言える「マハヤナ学園」を創設しました。

さて、私たちに馴染みの深い"Not for him, But together with him"の言葉は、ちょうど同時期の良信先生の著書『社会事業とはなんぞや』(大正8年刊行)の中に初めて見ることができます。わが国で社会事業という語を書名に最初に用い、社会事業の理論を明確に示した名著であり、29歳の若さでこれを著した良信先生の明晰な頭脳、類まれな行動力にあらためて驚かされます。心血を注いで実践してきた隣保事業において、良信先生は、「(社会)救済は相救済互でなければならない。"for him"(彼のために)ではなく、"with him"(彼と共に)でなければならない」という思いをいっそう強く確信して生まれた言葉と言えるでしょう。そして、この理念をもとに同著の中で、個別・単発的な慈善救済活動から、デパートのような総合支援救済型の社会事業への転換を新しい理論として提起しています。

このように良信先生は、仏教の精神をよりどころに、社会事業の実践を通して、「感恩奉仕」、「自利利他」、「共生き」のこころを体得・体現されてきました。ふだん私たちが自然に耳にする一つひとつの言葉の意味を、あらためて胸に深く刻んでおきたいと思います。

### 宗教・社会福祉・教育の三位一体による人間開発・社会開発

良信先生は、恵まれない人々への支援を通して教育の必要性を痛感しました。教育は生きるために必要な知識を教授するという意味もありますが、良信先生はさらに高い志を抱きます。宗教(仏教の精神)と社会福祉(社会事業)と教育が意味ある連携を築くことによって、自分の後に続く者を育て、豊かな共生社会を実現していきたい。この理想の延長線上に私たちの学びはあるのです。

実習やボランティア活動などで社会に貢献することは、同時に私たちにとって学ばせていただくことでもあります。社会福祉や教育や看護・栄養に限らず、経営やコミュニティ活動、人に向けて発信し表現する営みにおいても同じです。社会や他者のために行動することで、自分が必要とされていること、自分が他者に生かされていることを自覚する。さらに、どうしたら自分を他者の世の中のために生かすことができるかを深く考える。まさに、共生きの実践です。こうした社会と関わりながら自己の人格を磨いていく実りある学びが、淑徳大学の教育の柱である「実学」なのです。宗教・社会福祉・教育の三位一体による人間開発(人材育成)・社会開発(社会貢献)とは、「実学」を意味するとも言えます。

良信先生が生きた時代とは異なりますが、少子高齢化、格差、自然災害、地域の衰退、世界的に見れば紛争や貧困など、現代社会にも難問が山積しています。このような時代に、良信先生ならどのように行動したでしょうか。皆さんには、良信先生のバトンを受け継いでいく使命があります。共生きという時代を超えた普遍のこころと淑徳大学の諸先輩が築いてきた伝統を誇りに、日々の学びや活動に真摯に取り組んでいこうではありませんか。

長谷川匡俊
『トゥギャザーウィズヒム―
長谷川良信の生涯』
新人物往来社 1992年

Not for him , but together with him
～"彼のために"ではなく"彼と共に"～

1922年ごろ内務省嘱託・浄土宗海外留学生として
当時珍しかった、欧米留学の前後の写真。マハヤナ学園まえで撮影された

### 長谷川良信先生の生涯

**幼少年期(1890～1909)**

1890年、茨城県西茨城郡南山内村字本戸(現・笠間市内)で、長谷川治衛門(父)・なを(母)の五男として生まれる。1896年(6歳)、茨城県真壁郡真壁町字古城(現・桜川市真壁町)の得生寺に養子として入籍。出家得度する。

**青年期(1910～1930)**

1910年(20歳)、宗教大学予科入学。1915年(25歳)、東京市養育院巣鴨分院に勤務。1916年(26歳)、胸部疾患に冒され、房総半島に転地療養、闘病生活に入る。1918年(28歳)、西巣鴨の通称"二百軒長屋"でセツルメント事業を開始。
そのほか、マハヤナ学園の創設、『社会事業とはなんぞや』の刊行など、社会事業専心期。

**壮年期(1931～1952)**

1922年(32歳)、内務省嘱託ならびに浄土宗海外留学生として欧米に社会事業研究のため派遣。そのほか、大乗淑徳学園の創設など、社会事業と教育事業を両輪としつつも、特に第二次世界大戦後は、戦後復興を期して教育事業に尽力する。

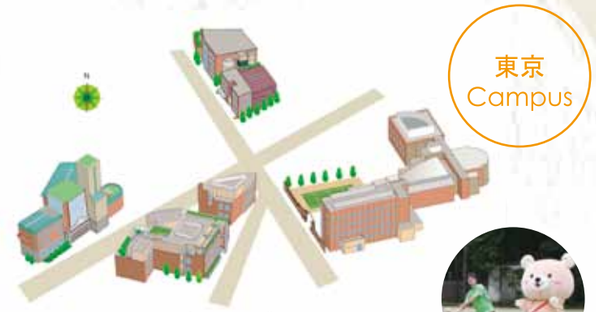
**老年期(1953～1966)**

1953年(63歳)、単身ブラジルに渡り、南米開教に先鞭をつける。その後も2回渡伯。1965年(75歳)、淑徳大学開学。1966年8月4日遷化(行年75歳)。

H.28.4.1 現在 ／ 通常授業期間以外は閉室日および時間が変更になる場合があります。

# CAMPUS MAP

キャンパスをフル活用してアクティブに行動しよう！



## 千葉キャンパス お役立ちサポートオフィス

▶ 地域支援ボランティアセンター 15 号館 1F
月～金　9：00～16：30 ／土 9：00～12：30

▶ 保健相談室 2 号館 2F
月～金　9：00～17：30 ／ 土 9：00～12：30

▶ 図書館 4 号館
月～金　9：00～20：40 ／ 土 9：00～16：30

▶ キャリア支援センター 15 号館 B1F
月～金　8：50～17：30

▶ 学生相談室 13 号館 1F
月～金　8：50～16：30

▶ 心理臨床センター 13 号館
月・火、木～土　11：00～18：00

▶ 学生サポートセンター 15 号館 1F
月～金　8：50～16：30
土　8：50～12：30

▶ サービスラーニングセンター 15 号館 2F
月～金　8：50～17：30
土　8：50～12：30

| No | 団体名 | 千葉キャンパス |
|---|---|---|
| 1 | 軟式野球部 | |
| 2 | 剣道部 | |
| 3 | 軟式庭球部 | |
| 4 | 卓球部 | |
| 5 | 排球部 | |
| 6 | 羽球部 | |
| 7 | 体育会弓道部 | |
| 8 | 蹴球部 | |
| 9 | 淑徳大学吹奏楽部 | |
| 10 | バスケットボール部 | |
| 11 | 手話サークル　たんぽぽ | |
| 12 | 硬式庭球部 | |
| 13 | ラクロス部 | |
| 14 | ドルフィンズ（ボランティア） | |
| 15 | 徳能雑技団（ジャグリング） | |
| 16 | パネルシアターサークル　でんでん虫 | |
| 17 | キックボクシング部 | |
| 18 | 放送制作研究会 | |
| 19 | Ｆ＆Ｊ カンパニー（バンド） | |
| 20 | MKC（ボランティア） | |
| 21 | 硬式テニスサークル S.P.T.C | |
| 22 | 千葉地区 BBS（ボランティア） | |
| 23 | ボランティアサークル　いもんこ | |
| 24 | 軟式野球サークル　PCF | |
| 25 | 陸上競技部 | |

| No | 団体名 | 千葉キャンパス |
|---|---|---|
| 26 | FC.AUS（サッカー） | |
| 27 | 点字探偵談（点字） | |
| 28 | ダンスサークル　CDC | |
| 29 | 医療ボランティアサークル　Color Colors | |
| 30 | 文芸部 | |
| 31 | 中国語サークル　彩虹橋 | |
| 32 | Feels（フットサル） | |
| 33 | Comic＆ILLustrations オオサカ（表現） | |
| 34 | REC☆Company（レクリエーション） | |
| 35 | THE BLACK SHOCK（バレーボール） | |
| 36 | YFC（スポーツ全般） | |
| 37 | お達者くらぶ（ギター） | |
| 38 | つるし柿音楽事務所（バンド） | |
| 39 | Sport Association Club（SAC）（ソフトボール） | |
| 40 | OUT↑↓CAST（バスケットボール） | |
| 41 | B′M（バスケットボール） | |
| 42 | CORNERS（軟式野球） | |
| 43 | CIELO（スノーボード） | |
| 44 | ペンギン村（バドミントン） | |
| 45 | FREE　STYLE（スポーツ） | |
| 46 | Riga：Militya（リガ・ミリティア）（ダンス） | |
| 47 | スポーツ研究サークル（教職・スポーツ実技） | |
| 48 | ボルダリングサークル | |
| 49 | こぶしセッツルメント（ボランティア） | |
| 50 | うたう会はぐるま（歌・楽器） | |

## 千葉第２キャンパス お役立ちサポートオフィス

▶ 保健相談室 1 号館 1 F
月～金　8：50～16：30

▶ 図書館 1 号館 1 F
月～金　9：00～19：50
土　9：00～12：30

▶ 学生相談室 1 号館 1 F
木・金　12：30～17：30

▶ キャリア支援室 1 号館 1F
月～金　9：00～16：30
土　9：00～12：30

| No | 団体名 | 千葉キャンパス |
|---|---|---|
| 51 | ピアノ・デコ | |
| 52 | 劇団　Jolly Rojer | |
| 53 | デフアイ（手話） | |
| 54 | SNoTcH（子供・教育） | |
| 55 | Shukutoku Eagle Eyes（防犯） | |
| 56 | MARS（英会話） | |
| 57 | POPCORN（映画鑑賞・写真） | |
| 58 | 淑徳コミュニティ検定 | |
| 59 | 天文サークル | |
| 60 | Ｐａｎ　Ｃａｋｅ（写真） | |
| 61 | ハルミド♪（アカペラ） | |
| 62 | 将棋サークル | |
| 63 | びすけっと（サービスラーニング） | |

| No | 団体名 | 千葉第２キャンパス |
|---|---|---|
| 1 | うまいもん研究室 | |
| 2 | ios（アイオーエス） | |
| 3 | MIKFY−ASH（ミクフィーアッシュ） | |
| 4 | Shukutokids（シュクトキッズ） | |
| 5 | NEO　（ネオ） | |
| 6 | Making project in Shukutoku（メーキングプロジェクトインシュクトク） | |

## 埼玉キャンパス お役立ちサポートオフィス

▶ 事務局（学事部・総務部）1号館 1 F
月～金　9：00～16：30
土　9：00～12：30

▶ 保健相談室 1 号館 1F
月～金　9：00～16：30

▶ 学生総合相談支援室 1 号館 1F
月～金　9：00～16：30

▶ 総合キャリア支援室 1 号館 1F
月～金　9：00～17：00
土　9：00～12：30

▶ カウンセリングルーム 1 号館 3F
該当曜日　9：00～16：30（要事前予約）

▶ 教員・保育士養成支援センター 1 号館 2F
月～金　9：00～17：00

▶ 情報教室・ＰＣ自習室 3 号館
月～金　8：00～21：00
土　8：00～16：30

▶ 国際交流センター事務室 1 号館 1F
月～金　9：00～16：30

▶ 図書館 図書館棟
月～土　9：00～21：00

▶ 実践学習支援センター 4 号館 3F
月～金　9：00～16：30

| No | 団体名 | 埼玉キャンパス |
|---|---|---|
| 1 | ソフトボール部 | |
| 2 | 女子柔道部 | |
| 3 | 女子卓球部 | |
| 4 | バドミントン部 | |
| 5 | 硬式野球部 | |
| 6 | 男子バレーボール部 | |
| 7 | 硬式テニスサークル　Goose　egg | |
| 8 | チアリーディング部ＴＯＰＥＲＳ | |
| 9 | 軟式野球部 | |
| 10 | バレーボールサークル | |
| 11 | ESTRELA（サッカー） | |
| 12 | ジュネス（オールラウンド） | |
| 13 | 雪人（スノーボード） | |
| 14 | 男子バスケットボール部 S.U.B | |
| 15 | バスケットボールサークル K.C.K | |
| 16 | HYBRID（格闘技） | |
| 17 | FC・TEAMO（フットサル） | |
| 18 | S.S.S（淑徳・スポーツ・スター） | |
| 19 | Bolero（フットサル） | |
| 20 | ★スリー★スター★（卓球） | |
| 21 | ソフテニサークル | |
| 22 | ピクミンとん（バドミントン） | |
| 23 | softtennis | |
| 24 | フレンド | |
| 25 | Blue Sky（スポーツ） | |

| No | 団体名 | 埼玉キャンパス |
|---|---|---|
| 26 | Spenser（オールラウンド） | |
| 27 | calciatore（フットサル） | |
| 28 | c.f.c（カレッジ・フェスタ・コミッティ）（淑徳祭） | |
| 29 | Liberty（ダンス） | |
| 30 | グリークラブ | |
| 31 | S.M.C（Shukutoku Music Club）（吹奏楽） | |
| 32 | アリキキノ（教育・学校活動） | |
| 33 | アロハ会（オールラウンド） | |
| 34 | FUNK 部 | |
| 35 | 軽音楽部 | |
| 36 | 創作部 CRAZY5（イラスト・小説他） | |
| 37 | E-pro.（教材研究） | |
| 38 | * 華組 *（ソーラン節・ダンス） | |
| 39 | アカペラサークル　Jam Holder | |
| 40 | パネルシアタークラブ　PITA PETA | |
| 41 | 将棋部 | |
| 42 | 野球観戦サークル | |
| 43 | TCGC ～ Trading Card Game Circle ～ | |
| 44 | 環境ボランティアサークル | |
| 45 | 総合ボランティアサークル "Positive" | |
| 46 | dream of education（教員を目指す自主学習会） | |
| 47 | Touristwalker（観光地訪問） | |
| 48 | 文化交流 PARTY（留学生交流） | |

## 東京キャンパス お役立ちサポートオフィス

▶ 学生支援部 1 号館 1 F
月～金 8：45～18：15 ／土 8：45～12：45

▶ 保健相談室 1 号館 1 F
月～金 8：45～16：45 ／土 8：45～12：45

▶ 学生相談室 1 号館 2 F
火～金 10：30 ～ 17：00

▶ キャリア支援室 2 号館 1 F
月～金 8：45～18：15 ／土 8：45～12：45

▶ ボランティアセンター 3 号館 1 F
月～金 9：00 ～ 16：30 ／土 9：00 ～ 12：30

▶ 図書館 6 号館
月～金 9：00 ～ 21：00 ／土 9：00 ～ 16：30

| No | 団体名 | 東京キャンパス |
|---|---|---|
| 1 | 奇談伝承地探訪研究会 | |
| 2 | 創作活動隊 | |
| 3 | HEART サークル | |
| 4 | 軽音楽サークル | |
| 5 | かるた同好会 | |
| 6 | Eproduction(Eﾌﾟﾛﾀﾞｸｼｮﾝ) | |
| 7 | カチンコ・プロダクション | |
| 8 | Ultimate Perfect Morimori | |
| 9 | カラオケサークル | |
| 10 | テニスサークル | |
| 11 | 演劇サークル | |
| 12 | バスケットボールサークル Butterfly | |
| 13 | ゲーム同好会 | |
| 14 | 淑徳放送研究会 | |
| 15 | 淑徳武道会 | |
| 16 | 卓球サークル | |
| 17 | 農業体験サークル | |
| 18 | （W）ＳＴＹＬＥ | |
| 19 | フットサル同好会 | |
| 20 | バドミントンサークル | |
| 21 | バスケットボールサークル | |
| 22 | 総合大衆文化演習同好会 | |
| 23 | 淑徳ミュージック倶楽部 | |
| 24 | 淑徳祭運営委員会 | |
| 25 | 行こう国内へ | |
| 26 | 英語サークル | |
| 27 | ダンスサークル Victory | |
| 28 | 淑徳声優研究会 | |

# 淑徳人 vol.211

KATO Kenjiro

## 加藤 健次郎さん

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園 勤務

知的障がいがある生徒の職業的自立を目指す新しいスタイルの特別支援学校で、進路指導を務める加藤さん。
生徒たちと実社会を結びつける仕事で、学生時代にさまざまな経験を重ねてきたことが大きく役立っていると言います。
今しかできないことにためらわずに挑戦する。その背中を押してくれたのが淑徳大学での出会いでした。

2002年、社会学部卒業。教員になって6年目。船橋市立船橋特別支援学校を経て現職。海外体験や得意の中国語は外国人の親を持つ生徒の支援に役立っているという。

## 今を大切に、いろいろなことに挑戦してほしい

加藤さんの仕事は私たちがイメージする教員とはだいぶ異なります。就職先を開拓したり、実習の打ち合わせをしたり、ほとんど学校にいることはなく企業回りが中心。社会や企業の方に障がいについて理解していただくことも大切な仕事です。

「生徒のやりたいことや気持ちが真ん中にあって、そして担任や保護者の方の期待や不安、企業の方の要望、いろいろな立場の思いを尊重しながら、生徒が最も輝くことができる場所を見つける仕事です。職場で生徒と一緒に働いて支援したり、企業の方にその生徒に合ったコミュニケーションの取り方を示してお願いしたりすることも。私が適性を見極めて勧めた進路で、生徒が生き生きとしている姿を見る時、やりがいを感じます」

子どもと関わる仕事がしたいと思いながら、電機メーカーの営業、台湾での幼稚園教諭、フリースクールや山村留学のスタッフなど、さまざまな経歴を経て、教員になった加藤さん。そこには、世の中のことを知らないまま教員になってはいけないという思いがありました。

「塾講師のアルバイトやボランティア活動を通して、教員を志すようになりました。でも、いろいろな経験をしておいたほうが子どもに接する時に役立つと思ったのです。淑徳大学では天津大学語学研修やブラジル派遣研修に参加させていただきました。さらに、個人的に教育に関するロールプレイング研究会に参加して日本全国を回ったり、山村留学のボランティアに住み込みで携わったり、大学にはほとんどいませんでした(笑)」

今しかできないことにためらわず挑戦してきた加藤さん。そのスイッチを押してくれたのが淑徳大学だったと振り返ります。

「海外への目を開いてくださったのが恩師である卜先生です。だらしないことをすれば厳しく叱る一方で、ご自宅に気軽に招いてくださいました。愛情溢れる先生を慕って、今でも卒業生たちが集まっています。そして、ブラジル派遣研修では、長谷川良信先生が築かれた人のつながりの重さを実感しました。愛情や共生ということが、体験を通して心に刻まれた気がします。皆さんも、外に目を向けていろいろなことに挑戦し、引き出しを増やしてほしいと思います」

生徒の数だけ人生があり、それに関わることができる自分は幸せと話す加藤さん。障がいを持った人が自立できる社会を願って、これまで受けてきた愛情を出会う人々に注いでいます。

## Photo × Photo

今年2月28日天津大学留学仲間大集合！天津大学語学研修のメンバーたちは4年に一度集まっています。

台湾で働く間、年中組の子供たちと芋掘り遠足。食事、文化、言葉など異なる部分は多いけれど、子供の素直な心は万国共通。

言葉はうまく通じないが、心と心で繋がれた瞬間。知的障がいのある子供が通う学校での研修。短い時間でしたが、今でも彼らと過ごしたときのこと、共に食べた給食の味、覚えています。



# CLUB PRESS（クラブプレス） VOL.211

各キャンパスのクラブ・同好会をご紹介します

## お達者くらぶ

CHIBA CAMPUS

- 代表者　天貝　雛子（実践心理学科3年）
- 創　部　1987年
- 部員数　38名
- 活動日　毎日、自由な時間に
- 活動場所　11号館304、11号館テラス

こんにちは！アコースティックギター弾き語りサークルの、お達者くらぶです。「何事もお達者であれ」という由来のもと、「音の和」をテーマに、日々楽しく活動しています。毎年、新歓LIVE・夏合宿・文化祭LIVE・クリスマスコンサート・追い出しコンサートなどを通して、日々の練習の成果を発表しています。部員の中でも、楽器初心者の方たくさんいます！ぜひ、気軽に見に来てください！
Twitter公式アカウント▶「@OtasshaClub1987」

## 勉強会サークル ～ios～

CHIBA 2ND CAMPUS

- 代表者　宮崎　文太（看護学科2年）
- 創　部　2015年
- 部員数　11名
- 活動日　毎週木曜日
- 活動場所　セミナー室等

こんにちは、勉強会サークル～ios～です。私たちは「優秀な看護師になる」という目標を掲げ、仲間たちとともに、様々な試みをしています。普段の活動は、学校の課題や苦手な部分の復習に当て、1ヶ月に1回は、自己表現力を高めるためのプレゼンや、国試の勉強を先駆けてやるなど独自の「イベント」を行っています。1月には、外部より講師（看護師、理学療法士）を招いて、看護師のキャリアについてお話いただき、将来を考える良い機会を得ることができました。今後は、自分が興味を持った病気について各々がプレゼンをする機会を作ろうと思っています。新しいことをどんどん行っていくので、ワクワクするサークルです。興味のある方はぜひ参加してみてください。真面目でおもしろい人達が待ってます！

## FC.TEAMO

SAITAMA CAMPUS

- 代表者　工藤　光流（経営学科4年）
- 創　部　2008年
- 部員数　40名
- 活動日　火曜日
- 活動場所　202号室

こんにちは、FC.TEAMOです！私たちFC.TEAMOは初心者大歓迎のフットサルサークルです！部員は男子30名、女子10名です。女子も男子に混ざって、毎週火曜日、埼玉キャンパスのフットサルコートと体育館で楽しく活動しています。FC.TEAMOは先輩後輩関係なくとても仲が良いサークルです。去年は初めて大会にも出場し、男子、ミックスともに準優勝したり、文化祭にも模擬店を出店しました。今年は去年以上に大会に参加し、活動を活発にしていく予定です！今年の目標は、大会での優勝、そしてフットサル以外でもみんなで楽しめるようなイベントをすることです。フットサルに興味のある方はぜひ一度一緒にプレーをしましょう!!初心者の女子も大歓迎です！もちろん男子の参加も待っています！みんなで楽しいサークル活動にしていきましょう!!

## 淑徳放送研究会

TOKYO CAMPUS

- 代表者　中里　玲奈（表現学科3年）
- 創　部　2014年
- 部員数　32名
- 活動日　水曜日
- 活動場所　4-1教室、スタジオ、編集室

外に出るサークルを目指しているので、他の大学との関わりがすごく多いサークルになっています。東京FM一次試験免除になる東京FM主催のDJライセンス、M&Dライセンス取得やNHK杯全国大学放送コンテストへの出場、夏冬の合宿、そしてスキー場のアナウンス、他の大学との交流など実践的な活動をしています。たくさんのチャンスが転がっているサークルです。ぜひ、見学にお越しください。

# NEWS CLIP

2015.11-2016.04

TOKYO Campus

## HEARTサークル「クリーンアップ プロジェクト」始動

年明け間もない1月9日、人文学部HEARTサークルは「クリーンアップ プロジェクト」と銘打ち、東京キャンパスから、ときわ台駅までの道路の清掃活動を行いました。

寒空の下、参加したHEARTサークルのメンバーは、地域の方々の温かい言葉に励まされながら、落ちている吸い殻やペットボトルを懸命に拾いました。参加したメンバーからは、「自分たちが街をきれいにすることで達成感を得た」「やってみたら楽しくて、あっという間に時間が過ぎた」などの感想が挙げられ、一人ひとりにとって貴重な時間を持つことができたようです。

「クリーンアップ プロジェクト」は、今後も月に1度、HEARTサークルが主導となり実施していきます。

## 板橋区の「区長と区政を語る会」に人文学部の学生が参加

1月29日、板橋区役所で開かれた「区長と区政を語る会」に人文学部の学生が招かれ、「板橋区の魅力度アップ」をテーマに坂本健区長と意見交換を行いました。参加したのは、歴史学科と表現学科の1・2年生計16人。歴史学科の学生からは、若者の目から見て心ひかれる板橋区の歴史について、また表現学科の学生からは板橋区の魅力をいかに発信するかなど自由闊達に意見が交わされました。板橋の魅力を動画に収めて作品を発表する場を設けたらどうかというアイデアも飛び出し、区長が身を乗り出す場面もありました。協定を結ぶ板橋区と淑徳大人文学部が、より連携していく契機となりました。

うということ、そのために自分が何をできるのということを楽しみながら、かつ短時間で体験的に学べたのではないかと思います。

## 就活シミュレーションを実施しました

3月1日就活解禁目前の1月28日、就活シミュレーションを実施しました。

本企画は11月から始まった就活実践講座の集大成として、架空の企業へ応募するという設定のもと、多くの企業で行われている選考ステップ（筆記試験、グループディスカッション、グループ面接）を1日で模擬体験するものです。エントリーの段階から実際の選考に近い設定で行い、面接官も外部の企業経験者にご協力いただき、まさに本番さながらに実施しました。

当日は、各選考基準をクリアした20名が内定を獲得！参加した学生からは、「自分の反省点が多く見つかり、いい機会になった」「自分の苦手な点が見つかったので、これから頑張っていきたい」等々、気づきに繋がったようです。惜しくも内定を逃した学生を含め、本番では自分の力を十分に発揮できるよう、ガンバレ！

## 学生による横瀬町のブランディング活動

1月30日、経営学部の学生（約30名）が埼玉県横瀬町芦ヶ久保にある氷柱の隣でアイスキャンドルイベントを開催しました。これは経営学部の実践科目講義の一環で、横瀬町（道の駅あしがくぼ）・国土交通省・淑徳大学が連携した産官学の取り組みです。産官学連携の中で、学生は本イベントだけでなく、緑茶の新パッケージや、紅茶の新商品開発などにも取り組みました。マーケティングの観点から学生は、「良いものを作っても、多くのお客さんに知ってもらわなければ売上は伸びない」と考え、多くのお客様に足を運んでもらうきっかけとしてアイスキャンドルイベントを企画しました。

この様子は読売新聞（1月31日）や埼玉新聞（2月1日）にも掲載され、大きな反響を呼びました。

の学年にちなんだ合言葉を作り、学生が一丸となって勉学に励める工夫をしています。今年は「YDKーやればできる子ー6期生」を合言葉に国家試験対策に臨んでいました。

奏功会では受験の心構えに加え、「スター・ウォーズ／フォースの覚醒」をモチーフにした教職員・下級生からのビデオメッセージや臨地実習真最中の3年次生より国家試験合格へのエールが贈られました。学生生活4年間の集大成である国家試験に挑む学生達への強い後押しとなりました。

## シュクトキッズ（サークル）が表彰されました

シュクトキッズは、千葉県こども病院における病棟での子どものボランティアにおける長年の功績が認められ、千葉県病院局より感謝状をいただきました。平成22年の創立から、入院している子どもたちへの遊びのボランティアを続けてきました。これからも子ども達のために、自分たちにできることを続けていきたいと思います。

SAITAMA Campus

## 「リーダーズキャンプ」を実施

1月4日・5日、国立オリンピック記念青少年総合センターで「リーダーズキャンプ」を実施しました。リーダーズキャンプは、「自ら行動し、多くの人と喜びや楽しみを分かち合える」、学生がそんな新しいリーダーに育っていくための、さまざまな座学やグループワークで構成されています。今年は認定団体やゼミの代表者など、男女65名が参加。屋内外での活動を通し、はじめはぎこちなかった仲間とも気づけば主体的に声を掛け合い、積極的に協働しあう仲間へと学生たちは成長していました。いつの間にか夢中になり、自信を持って仲間と係わり合いワークに臨んでいる姿がとても印象的でした。組織の中でリーダーになるということ、全員で協力し合

祉以外にもさまざまな分野で人や地域とつながれることがわかり、視野が広がった。」「これまで知らなかった企業に興味がわき、選択の幅が広がった。」「自分で可能性を狭めずに済んで良かった。」「エントリーしたい企業が見つかった。」などのコメントが寄せられました。

## リーダーズキャンプ開催

3月1日から3月2日、1泊2日のリーダーズキャンプが美浜区にあるホテルヴェルシオーネ若潮で開催されました。千葉キャンパスの学生団体39団体のリーダー、合計40人の参加がありました。

キャンプでは、クラブ・サークル・各種認定と準認定団体・学生寮の代表者が一堂に会し、学生厚生委員会の教職員の指導の下で、アイスブレークや大学歌唱歌、また、「大学を元気にするために―50回目の龍澤祭を考えよう―」をテーマにしたコンペティションの準備と発表など、2日間充実した活動を全うしました。

参加学生たちはキャンプを通して、リーダーとしての自覚が高められ、各団体の活性化の方策を探ることができ、他の団体の学生との交流が深められました。

CHIBA2nd Campus

## 栄養学科のゼミ生による料理教室

眞鍋教授のゼミに所属する学生が、12月6日に親子料理教室を行いました。この料理教室は、国指定産地の千葉市がニンジンの地産地消拡大を目的として企画したものです。会場の稲毛区小中台公民館に集合した親子は、ゼミ生の指導よろしく和気あいあいのなか料理を完成させました。「とてもおいしかった。学生さんの対応が良かった。また料理教室をお願いしたい。」との声があがり大好評でした。料理教室に先立ち、ゼミ生はニンジン栽培の様子を取材したり、大山教授の助言のもとレシピを作成したりと大わらわでした。活動

内容は千葉市食育＆消費者教育情報誌「おいしくタベルたのしくマナブ」で紹介されました。

## 第6期生 看護師・保健師国家試験奏功会開催

11月25日、看護学科第6期生への看護師・保健師国家試験奏功会が開催されました。毎年そ

政治参加に関わる活動や取り組みが取り上げられました。1月3日には、矢尾板准教授のワークショップの学生である木村有花さん（4年生）が、昨年にサービスラーニング活動の一環で行った小学校での模擬投票の経験について取材され、紹介されました。

また1月4日には、矢尾板准教授のケーススタディの鴉川貴也君（3年生）の自身の経験について取材され、コメントが紹介されました。さらに1月5日には矢尾板俊平准教授へのインタビュー内容が掲載されました。

▲ 2016年1月3日と4日の東京新聞 朝刊千葉中央版に掲載

## 全国からも大反響！学生消防団！！

全国初の大学内の消防団、地域の消防団員が減少する中の若い消防団員を呼び込む旗手として本学の学生消防団が新聞取材を受け、毎日新聞（1月8日夕刊）、朝日新聞（1月10日朝刊）に掲載されました。

また、日頃の学生消防団員の練習する姿や地域の町内会との交流の様子、消防団としての啓蒙活動がテレビの取材を受け、1月19日 NHK総合おはよう日本（首都圏版）、2月2日 NHK総合（首都圏ネットワーク）、2月16日 日本テレビNEWS ZERO桐谷美玲〈my generation〉にて放映がされました。

これらの新聞やテレビ放映などにより全国からの反響も非常に大きく、本学の地域連携の成果を世間に知らしめ、ブランドイメージをさらに高めました。

## 2017年度生、就職活動本格的スタート

3月から企業の採用広報活動が解禁となり、2017年卒業予定者の就職活動が本格的にスタートしました。解禁直前の2月には、直前対策講座や『業界ウォッチ』（業界・企業研究セミナー）で、就活準備の総仕上げを実施。中でも、4日間で40の企業団体を集めた「業界ウォッチ」に参加した学生からは、「福

ALL Campus

## 駐日ブラジル大使へ御礼のご挨拶

昨年9月の大学創立50周年式典に際し、本学とブラジルとの長年にわたる友好関係から、お祝いのメッセージをお送りくださった駐日ブラジル大使。その大使ご本人へ御礼を直接お伝えする機会が、東京・六本木ミッドタウンにあるビルボードライブ東京の計らいでようやく訪れました。3月7日夜、ブラジルが生んだ伝説のミュージシャン、セルジオ・メンデスの来日公演へ訪れたアンドレ・コヘーア・ド・ラーゴ駐日大使は、「日伯寺はブラジルに4つもあるのですね。わが国へ研修に来られる学生の皆さんも、良い思い出をたくさんお作りください」と温かく話されました。

▲ 左から、北野大 人文学部教授、アンドレ・コヘーア・ド・ラーゴ駐日ブラジル大使、ラウル・デジャン駐日アルゼンチン大使、長谷川俊哉千葉事務局次長

## アジア国際社会福祉研究所　4月1日に開所

福祉の淑徳。学祖以来のひとつの夢あるいはキーワードは国際化。研究部面においてその一翼を担うべく、新年度、淑徳大学の中にアジア国際社会福祉研究所がスタートします。

この新設に伴い、アジア仏教社会福祉学術交流センターは現在の長谷川仏教文化研究所の下から、このアジア国際社会福祉研究所の下に、そのままの形で移り、その中核をなすことになります。

CHIBA Campus

## 若者の政治参加に関する記事で東京新聞社から取材

東京新聞千葉面では、新年特集として、今年の参議院選挙から選挙権が18歳以上に引き下げられることに伴い、高校生や大学生の

SHUKUTOKU Together 211
The Shukutoku University Newsletter
発行日：平成28年4月1日　編集：大学広報編集委員会　発行：大学事務局　制作協力：株式会社図書出版

## 第６回 石巻市立大須小学校・中学校
# 『学習支援ボランティア募集』

ご応募お待ちしています

この学習支援ボランティアは、東日本大震災以降、淑徳大学と交流が続いている宮城県石巻市立大須小学校・中学校の子どもたちの、夏休みの学習を支援することを第一の目的としています。そして、被災地の現実と復興の現状を、人々の生活にふれて「ともに生きる」ことの意味と「私たちに何ができるか」を体験的に学ぶことを第二の目的としています。

この夏、子どもたちとともに、地域とともに、災害の現実に学び、その復興について一緒に考えてみたい方は、ぜひ、ご応募ください。【写真：昨年度の様子】

| | |
|---|---|
| 期　日 | **平成28年8月上旬**（予定）　5泊6日<br>（昨年度実施時期：平成27年8月2日～8月7日） |
| 行　先 | 宮城県石巻市雄勝町大須地区 |
| 募集人数 | ボランティア学生6名 |
| 参加費 | 20,000円（予定） |
| 参加条件 | 全ての行程への参加とプログラム終了後の報告書の作成が要件となります。 |
| 問合せ窓口 | 千葉キャンパス／地域連携室　千葉第2キャンパス／事務部<br>埼玉キャンパス／学事部学生厚生<br>東京キャンパス／学生支援部 |

## 表紙の人・Cover Person

vol. 211

**塚本 龍星**（つかもと りゅうせい）さん（人文学部表現学科　２年）

東京キャンパス２期生として入学し、今も「表現」について学んでいます。大学の講義では、文章や編集、声、演劇などの様々な視点から多くの事を体験し、現役で活躍なさっている講師の方々から、貴重なお話を聞くこともできました。将来、自分がなりたい職業に向けて、一生懸命勉学に精を出しています。

学ぶこと以外にも、サークル活動やオープンキャンパスのアドミッションスタッフなどに積極的に参加してきました。また、空いた時間を課題に使ったり、友人と会話をしたりして、充実とした大学生活を送っています。

演劇練習中

現代表現論

## 知識モリモリ×健康モリモリ vol.11

※タイトルが少し変わりました。

今回は石井 克枝 先生に伺いました。

### 体にいいもの食べてる?

「体にいいもの食べてる？」と聞かれてあなたは何と答えますか。「もちろん健康を考えて、野菜食べているよ。」「エゴマが体にいいんだってね。」とかいろいろ聞こえてきます。体にいいもの、お答えしましょう。一つの食品だけで体にいいものはありません。私たちの体には、炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、無機質の5つの栄養素が必要だとされていますが、人間にとって必要量をいいバランスで含んでいるものは、残念ながらないのです。だからこそ、いろいろな食品を組み合わせて食べる必要があります。この単純なことが、「体にいいもの」というフレーズで、私たちの判断を鈍らせてしまいます。

日本には季節があり、海や山があり、日常口にする食品が多く、様々な調理法でおいしく食べることができます。食べることは栄養面だけでなく精神的な満足をもたらします。一緒に食べることにより、会話が弾み、仲良くなったりします。おいしく作る技術も大事です。私の専門はおいしく作るための謎を解く「調理学」です。調理を科学し、おいしく体にいいものを食べましょう。

## 編集後記

1月30日（土）、埼玉県横瀬町「あしがくぼの氷柱」会場にて行われた「アイスキャンドルアートイベント」で、私も取材をさせてもらった。これまでの半年間、経営学部の学生たちが準備を進めている様子を広報の立場から時々見せてもらってきたが、その中で彼ら一人ひとりの主体的な動きや準備にかける一生懸命さ、そして何より試行錯誤を繰り返しながら頑張っている様子に何度も触れてきた。イベント当日、地域の方々や学内の協力も得ながら準備してきたアイスキャンドルに火が灯り、暗闇の中にその幻想的な光景が広がった時、多くのお客さんが足を止めて見入っている姿と、やり終えた学生たちの満足そうな笑顔に感動した。私でもそうなのだから、学生たちや指導してきた教職員の想いはいかばかりだっただろうか。学生たちが生き生きと動き、考え、感じ、学び続けている姿をこれからも追いかけていきたい。（権田）

「淑徳大学広報」に関するご意見、ご感想などのメールをお待ちしております！　reply@soc.shukutoku.ac.jp

**千葉キャンパス**
総合福祉学部　コミュニティ政策学部
大学院 総合福祉研究科
〒260-8701
千葉県千葉市中央区大巌寺町200
TEL：043-265-7331

**埼玉キャンパス**
国際コミュニケーション学部
経営学部　教育学部
〒354-8510
埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
TEL：049-274-1511

**通信教育部**
〒174-0063
東京都板橋区前野町5-8-7
TEL：03-5392-5768

**千葉第2キャンパス**
看護栄養学部　大学院 看護学研究科
〒260-8703
千葉県千葉市中央区仁戸名町673
TEL：043-305-1881

**東京キャンパス**
人文学部　淑徳大学短期大学部
〒174-0063
東京都板橋区前野町6-36-4
TEL：03-3966-7631

**池袋サテライト・キャンパス**
〒171-0022
東京都豊島区南池袋1-26-9
MYT 第2ビル7F
TEL：03-5979-7061